

颶爽豪快 御柱新聞

つな つど さつそう ごうかい ひく
「綱に集い颶爽、豪快に曳く」

発行元：御柱実行委員会 発行責任者：手塚健治 作成編集：広報部

第4号

平成28年
3月15日発行



切呼の勇ましい掛け声と共に、力強く山中を下る御神木
(平成22年3月の山出しそり)

早春の山中 故郷から旅立つ御神木
御柱祭 「山出し」
来る、3月27日（日）御柱祭「山出し」が行われる。これは、切り倒された御神木を、人力で山中から里へと曳き出す、御柱祭の中でも節目となる重要な神事だ。

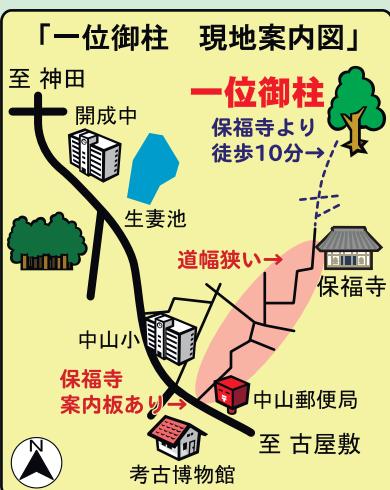
長い年月を経て大木となつた御神木が、故郷の中山から旅立つ日がやつてくる。氏子衆によつて樹皮をむかれた御神木は、白木の姿に化粧を施され、2月に町会総出で縛り上げられた曳き綱を結び付け、めでたく山出しの日を迎える。

3月27日、いよいよ氏子衆の総力を結集する時だ。切呼（きりこ）の「お頼みだあ！」の合図と共に「よーいさ、よーいさ！」と氏子衆が気合を入れて曳き綱を引く。人々の团结力によって、巨大な一本の柱が里に導かれていく様は圧巻だ。この日のために練習を重ねてきた「木遣り師」たちも、高らかな木遣り唄で皆の士気を高める。

早春の山中を舞台に展開される、御柱祭「山出し」の神事に、氏子の皆様も「曳き子」として、ご参加ご協力を願いしたい。

三月二十七日 日曜日（小雨決行）
午前六時三十分 神田公民館集合
※車両乗り合いによる送迎を予定

「御柱祭 山出し」ご案内



（参加者の皆様へ）

安全には十分注意しておりますが、山中の狭い傾斜地となるため、御柱の曳行には危険が伴います。
現地では、実行委員会の指示に従ってご参加下さい。

三位御柱 山出し（神事開始：七時十五分）
四位御柱 山出し（神事開始：十時十五分）
※四位御柱→一位御柱の順番で行います

三月二十七日 日曜日（小雨決行）
午前六時三十分 神田公民館集合
※車両乗り合いによる送迎を予定

力合わせて綱を縛る「曳き綱縛り」

去る2月21日、神田公民館にて御柱の曳行に使われる「曳き綱縛り」が行われた。館内には大量のワラが積み重ねられ、大勢の氏子の手によって、小さなワラ束がいくつも作られていった。杣役の指導により、いよいよ曳き綱作りが始まる。小さなワラ束を何層にも積み重ね「ヨイサ！ヨイサ！」と威勢の良い気合声とリズムで、少しづつ綱が縛り上げられる。根

綱が完成すると、皆、汗を流しながら達成感に満ちた笑顔を見せていた。この日、夕方までに作られた曳き綱は、大小20本あまり。3月27日の山出しまで、静かにその

杣役衆は全員で8名、手先の器用さと勤勉さにおいて、氏子の中でも極めてプロフェッショナルであり、誰よりも頼りにされている。今回の御柱では杣役の世代交代があり、新たに3名の若い杣役が加わった。彼らの活躍にも期待が集まる。

御柱の全ての行事において、彼らがいなければ何も始まらないと言われている。それが「杣役（そまやく）衆」だ。一見、木こりの様な姿をした杣役衆は、御柱にまつわる全ての行事に深く関わっている。御神木の選定に始まり、綱縛りの指示、切り倒しから、御柱の曳行、建立に至るまで、あらゆる神事を陰日なたから支えている。



杣役衆の皆さん（平成23年）

御柱祭を支える立役者「杣役衆」